

ごみ減量へ啓発活動

推進審議会

新規事業も確認

富士市廃棄物減量化等推進審議会は、令和3年度の1回目の会合を書面で開催した。審議会は学識経験者や市民団体の代表者、公募の市民ら15人で組織。市当局から本年度のごみ減量化に向けた事業計画の説明、2年度のごみ処理状況や事業の実績に関する報告を受けた。新規事業としてオリジナルエコバッグ作りワークショップやウォール・アート・プロジェクトなどに取り組む。今後、書面で委員から意見を募る。

エコバッグ作りワークショップは、使い捨てプラスチック削減の啓発が目的。紙や金属板に切り抜いた図柄や文字を刷り出すステンシルという描画法を楽しく学びながらエコバッグを作ってもらう。対象は一般市民で、会場は市内の児童館やふじさんエコトピアを予定している。

ウォール・アート・プロジェクトは、食品ロス削減をテーマに、市内の小中学校、高校の児童・生徒との協働により制作したアート作品で新環境クリーンセンター調整池の壁をラッピングする。視覚的・感覚的アプローチで市民の食品ロス削減に対する意識の醸成を図るほか、児童・生徒、保護者にふじさんエコトピアやふじかく

プロジェクトは、食品ロス削減をテーマに、市内の小中学校、高校の児童・生徒との協働により制作したアート作品で新環境クリーンセンター調整池の壁をラッピングする。視覚的・感覚的アプローチで市民の食品ロス削減に対する意識の醸成を図るほか、児童・生徒、保護者にふじさんエコトピアやふじかく

このうち、ごみ減量化推進では、ポイ捨て禁止・食品ロス削減ポスター展、エコ・クッキング講座、市民団体の富士友の会に委託した講座、広報紙の発行、小中学校でのごみ減量出前講座などを行う。ポスター展は新たに、小学校低学年向けに「のこさず食べよう」部門を設置し、作品を募集する。

ごみ総量が減少
分別不適は17%
令和2年度処理状況
令和2年度のごみ処理総量は、元年度から1616ト(2.1%)減少し、7万5154トだった。審議会の会合で市当局が報告した。

大きく減少したことが主な要因。集ごもり需要で家庭系ごみ焼却量は増加したが、事業系ごみの減少幅の方が大きかった。

事業系ごみ・その他焼却量は前年度比31.20%(17.4%)減の1万4810ト、家庭系ごみ焼却量は同比1932ト(4.4%)減の4万5597ト。増の4万5597ト。下水汚泥・し尿汚泥は同比533ト(13.4%)減の3454ト。家庭系可燃ごみの組成分析調査では、分別不適ごみは17.39%、食品ロスは3.7%となった。調査は3回実施し、うち2回は全品目を調べ、残り1回は食品ロス(直接廃棄)

のみを調べた。家庭系可燃ごみに占める分別不適ごみの内訳は、▽容器包装プラスチック6.76%▽古紙6.14%▽衣類3.61%▽ペットボトル0.81%▽缶・金属0.06%▽埋立ごみ0.02%となった。ガラス瓶と剪定(せんでい)枝は検出されなかった。